

航空機戦闘報告書

機密
(記入後も機密扱い)

I. 概略

- (a) 報告部隊 第1戦闘飛行隊 (b) 基地または母艦 米国軍艦 ベニントン (CV-20) (c) 報告番号 24-45
 (d) 発進: 日時 1945年7月24日 時刻 (地方標準時) 4時45分 (日本標準時) (区域): 緯度 北緯31度39分 経度 東経135度5分
 (e) 任務 名古屋圏の飛行場の掃討 (f) 掃討時刻 9時20分 (日本標準時) (区域)

II. 本報告による米軍機の公式装備

型式 (a)	飛行隊 (b)	機 数			搭載爆弾・魚雷 (1機当たり) (f)	装着信管 (g)
		離陸・発艦した機 (c)	敵機と交戦した機 (d)	目標を攻撃した機 (e)		
F6F-5	第1戦闘飛行隊	15		15	500 ポンド (AN-M64) 通常爆弾 -2 発	弾頭: AN-M103A1; 瞬発 尾部: AN-M101A2; .01 遅発
F6F-5P	第1戦闘飛行隊	1		1		

III. 本戦闘に参加した他の米軍機または連合軍機

型 式	飛行隊	機 数	基地・母艦	型 式	飛行隊	機 数	基地・母艦
なし							

IV. 発見または交戦した敵機 (IIに記載された米軍機によるもののみ)

(a) 型式	(b) 発見した機数	(c) 米軍機と交戦した機数	(d) 遭遇時刻	(e) 遭遇位置	(f) 搭載爆弾・搭載魚雷、確認した機銃	(g) 迷彩と記号
			(区域)	なし		
			(区域)			
			(区域)			

- (h) 明白な敵の任務 _____
 (i) 雲の中で敵機と遭遇したか? _____ 遭遇したのならば、雲について記載せよ _____
 (はい、いいえ) (フィート、雲の型、1/10を基準にして)
 (j) 時間帯と太陽または月の明るさ _____ (k) 透視距離 _____
 (夜間、明るい月、日中、曇り空等) (マイル)

V. 撃墜または空中で損害を与えた敵機 (IIに記載された米軍機によるもののみ)

(a) 敵機の型式	(b) 撃墜または損害を与えた米軍機				(c) 攻撃箇所、角度	(d) 与えた損害
	航空機の型式	飛行隊	パイロットまたは射手	使用機銃		
			なし			

航空機戦闘報告書

機密
(記入後も機密扱い)

報告番号 24-45

VI. 戦闘・作戦による米軍機の損失または損害 (IIに記載された米軍機によるもののみ)

(a) 米軍機の型式	(b) 飛行隊	(c) 原因：敵機の型式 機銃の型式、または作戦上の原因	(d) 攻撃を受けた箇所、角度 (攻撃を受けた外装、防漏燃料タンク、装備を記せ)	(e) 損失または被害の程度 (撃墜された機体の通し番号を記せ)
1 F6F-5	第1戦闘飛行隊	20mm	左翼に穴	母艦で修理できる軽微な損傷
2			右翼先端に穴	
3				
4 F6F-5	第1戦闘飛行隊	20mm	プロペラ	プロペラ外側がわずかに欠損
5				

VII. 飛行隊員の死傷者 (IIに記載された機のうち、左の番号を使ってVIに記載された機の中から確認せよ)

(a) 番号	(b) 飛行隊	(c) 氏名、階級	(d) 原因	(e) 容態または状態
		なし		

VIII. 帰還機の飛行距離、燃料、弾薬の資料

(a) 米軍機の型式	(b) マイル (往路)	(c) マイル (復路)	(d) 平均滞空時間	(e) 平均積載燃料	(f) 平均消費燃料	(g) 消費弾薬量				(h) 帰還機数
						.30	.50	200MM	MM	
F6F-5 と F6F-5P	198	204	4時間 35分	400	330		15,360			16

IX. 遭遇した敵対空砲火 (各行ごとの1区画をチェックせよ)

口径	なし	弱	中	強
大口径-時限信管付砲弾、75mm、またはそれ以上	X			
中口径-衝撃信管付砲弾、20mm-50mm	X			
小口径-機関銃弾、6.5mm-13.2mm (正確)			X	

X. 米軍機と敵機との性能比較 (左のチェック表を使用せよ)

各高度における速度、上昇 旋回 急降下 上昇限度 航続距離 装甲 兵装	なし
---	----

航空機戦闘報告書

(攻撃行われていないならばこの用紙を封印)

機密

(記入後も機密扱い)

報告番号 24-45

X I. 敵艦船または地上目標に対する攻撃 (IIに記載された米軍機によるもののみ)

豊橋飛行場 北緯 34 度 43 分、東経 137 度 19 分

(a) 目標と位置 老津飛行場 北緯 34 度 42 分、東経 137 度 22 分 (b) 目標到達時刻 6 時 30 分 (日本標準時) (区域)
(攻撃範囲内のすべての艦船に対して)

(c) 目標上空の雲の状態 雲底 500 フィート 積乱雲 10/10
(フィート、雲の型、1/10 を基準にして)

(d) 目標に対する視界 所々雲に覆われていた (e) 透視距離 3-7
(良好、かすんでいた、所々雲に覆われていた、等) (マイル)

(f) 爆撃方法 滑空 使用照準機 Mark 8 (固定)
(水平飛行、滑空、または急降下) (型式)

一爆撃航程当たりの投下爆弾数 1-2 投下の間隔 一発または一斉投下 爆弾投下高度 2,000-2,500
(数) (フィート) (フィート)

(g) 地上で命中した敵機の数: 破壊された数 ----- 破壊と推定された数 ----- 損害を与えた数 1

(h) 目標	(i) 規模またはトン数	(j) 攻撃参加機数	(l) 各目標ごとに使用した爆弾、 弾薬	(m) 目標に対する命中数	(n) 与えた損害 (なし、軽微、 重大、破壊または沈没)
		(k) 飛行隊			
1 豊橋飛行場 格納庫区域		16 機	500 ポンド 通常爆弾 23 発 50 口径機銃 1,560 発	6+	大破
		第 1 戦闘飛行隊			
2 船	小型商船	12 機	50 口径機銃 1,800 発		燃えながら船尾から沈没
		第 1 戦闘飛行隊			
3 河和水上機基地		12 機	500 ポンド 通常爆弾 4 発 50 口径機銃 4,000 発	2	2 発がスベリに命中
		第 1 戦闘飛行隊			
4 豊橋飛行場 格納庫、掩体壕		12 機	50 口径機銃 3,800 発	多数	双発機 1 機 大破
		第 1 戦闘飛行隊			
5 (2 次攻撃)					
6 老津飛行場		12 機	50 口径機銃 4,200 発	多数	判定不能
		第 1 戦闘飛行隊			
7					
8 (a) 写真撮影をした 1 機には爆弾を搭載して いない。 (b) 爆弾 3 個は投棄した。					

(o) 結果: (目標艦船上での全攻撃と特に重要な地上目標について、上面か側面、または両方の図をわかるように作成せよ。図には攻撃の方法と位置を示せ。上記の番号を使って、全目標に対する位置と攻撃結果を示せ。必要があれば用紙を追加せよ。)

(p) 写真は撮ったか? はい 損害の写真が撮った場合は、ホッチキスで留めて添付せよ。

航空機戦闘報告書

機密
(記入後も機密扱い)

報告番号 24-45

XII. 戦術と作戦の資料 (説明と意見 左のチェックリストで当てはまる項目に従って、行動については詳しく記載し、意見は自由に記載せよ。必要があれば用紙を追加せよ。)

16機のF-6Fヘルキャットで編成されたA1中隊は、午前4時45分にベニントンを発艦し、午前5時5分に集合空域で編隊を組み攻撃目標に向かった。中隊長のM. C. ホフマン少佐は、雲を通過して上昇を始め、攻撃目標の約60マイル手前まで高度500-800フィートで曇り空を飛行した。雲頂は、10,000フィートに達していた。攻撃目標は完全に雲で覆われていた。最初は300フィートまで降下し、区域を偵察した。ホフマン中隊長、R. K. ワインズ大尉、B. W. カンフィールド中尉の各小隊は、浜名湖の沖2マイルにいた漁船を機銃掃射した。浜名湖湾口にいた別の漁船は、R. A. フリンク中尉の小隊から機銃掃射を受けた。2隻の漁船は、沈没した。豊橋飛行場上空で3,700フィートまで上昇し、爆撃をするために曇り空の中2,500フィートで南東から北西へ飛行した。降下角30度、指示対気速度200-250ノット、2,000フィートで爆弾を投下し、900フィートで離脱した。

爆弾が6発命中するのを確認した。6発の内2発は、格納庫区域で北側にある格納庫に命中した。2発は、格納庫区域の中央に命中した。2発は、飛行場へかかる橋の西側付近に命中した。中隊長のM. C. ホフマン少佐は格納庫区域の最北にある大きな建物に爆弾を命中させ、建物を炎上させた。S. エバン中尉機は、正確な中口径の対空砲火を受けて、被弾した。左翼の穴と右翼先端の穴は、20mm対空砲によるものと推定される。ワインズ大尉の小隊は、攻撃後離脱し、高度3,700フィートで沿岸部の地形偵察を行った。W. C. オーエン少尉の写真撮影用の機体は、豊橋飛行場を機銃掃射中に、20mmと推定される対空砲火を受け、プロペラに被弾した。しかし、W. C. オーエン少尉機はプロペラに被弾しながらも、残りの撮影飛行を支障なく行った。

ホフマン少佐は3つの小隊を率いて西にある三河湾へ飛行した。三河湾内を東に進んでいた小型商船を全機で機銃掃射した。第1小隊のD. G. ノアール中尉は、機銃掃射している時に、船尾の喫水線辺りから大きな炎が出ていることに気がついた。全ての隊が船の上空に集まった時、船は燃えながら船尾から沈んでいるところだった。中隊長の小隊とフリンク中尉の小隊は、別の漁船にも機銃掃射をした。

それから、ホフマン少佐の小隊は、河和水上機基地へ向かった。北東方向から、指示対気速度200ノット、高度500フィートから基地への攻撃を開始した。爆弾2発がスベリに命中するのが見えた。対空砲火は、正確で激しかった。(中隊長の意見：河和水上機基地での低空攻撃は、とても危険な方法であり、明らかによい攻撃方法ではない。しかし、この基地を攻撃するには、そうせざるをえなかった。だから、攻撃は不十分な高度にもかかわらず、実行されたのである。)

全ての隊は集合して東にある豊橋飛行場へ戻った。そして、ホフマン少佐とカンフィールド中尉の小隊は豊橋飛行場を機銃掃射した。中隊長は、南西の掩体壕に入っていた2機の双発機の内1機に機銃掃射をした。南東へ離脱してから、3隊を再編成し、老津飛行場を2回攻撃した。ドラム缶、設備を機銃掃射して、南東へ離脱した。東から西へ飛行し、3,500フィートから30度の角度で突入し、2,500フィートで雲を突き抜け、500~1,000フィートで機体を引き起こした。全ての隊が集合した後、空母に向かい、午前9時20分に着艦した。帰投時の可視範囲1マイル先1/2、約50マイルにわたって雲高は750フィートだった。ベニントンに着艦したのは午前9時20分だった。

本作戦で行われた低空爆撃は、例外的な攻撃方法なので、奨励できない。

XIII. 機体の資料 (左のチェックリストの項目に従って、性能と適合性に基づいて意見は自由に記載せよ。必要があれば用紙を追加せよ。)

なし

報告書作成

承認

海軍予備大尉 ハロルド W. デイビッド
(署名) (階級)

海軍少佐 M. C. ホフマン
(署名) (階級)

1945年7月24日
(日にち)

飛行隊航空戦闘情報士官

中隊長